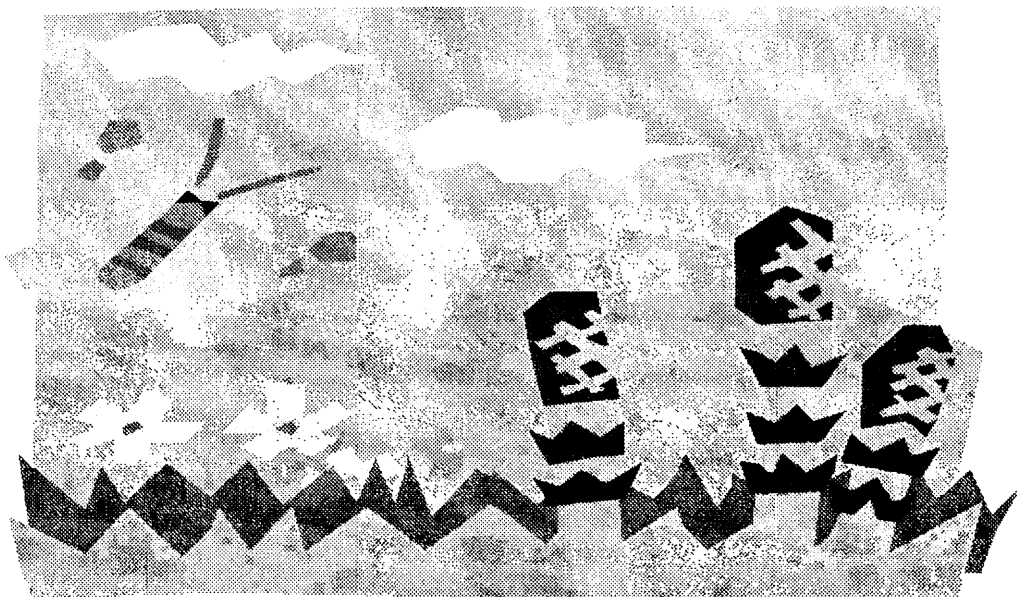
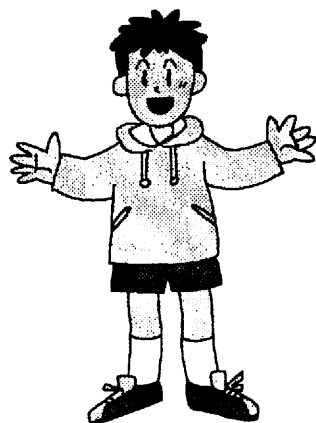


(小学校道徳)

道徳的価値の自覚を図るゲストティーチャーの活用

—自然とふれあう活動を通して—



浦添市立教育研究所

教育研究員

浦添市立前田小学校

飛田昌恵

	目 次	
I	テーマ設定理由	1
II	目指す児童像	2
III	研究の目標	2
IV	研究仮説	2
	1 基本仮説	
	2 作業仮説	
V	研究構想図	(3)
VI	研究内容	2
	1. 体験活動と道徳学習の学習・ ゲストティーチャーについて	
	2. 「道徳的価値」と「気づき」について	
VII	授業実践	3
	1. 総合主題	
	2. ねらい	
	3. 総合単元の全体構想図	
	4. 検証授業の考察	
VIII	研究の考察	11
IX	研究の成果と課題	17
	1. 研究の成果	
	2. 今後の課題 おわりに	
	主な引用・参考文献	18

道徳的価値の自覚を図るゲストティーチャーの活用

—自然とふれあう活動を通して—

浦添市立前田小学校 飛田昌恵

【要約】

「心の教育」において重要な役割を果たす道徳教育では、そのかなめとなる「道徳の時間」で道徳的価値の自覚を深め、よりよく生きようとする児童の育成を目指すことが必要である。児童の道徳的価値を深めるために、体験活動における「さまざまな気づき」と「道徳の時間」にねらいとする価値の関連を考え研究を進めた。「総合的な学習の時間」に体験の場を求め、ゲストティーチャーを活用し、ねらいとする価値と体験活動における「気づき」の関連を図った。それによって道徳的価値の自覚が深まり、道徳的实践力が高められたのではないかと考える。

キーワード 道徳的価値 自然体験活動 ゲストティーチャー 総合単元的学習

I テーマ設定理由

新学習指導要領が全面実施され、確かな学力の育成にならんで、「心の教育」の充実が大きな柱の一つになっている。「心の教育」の充実が目指されるには、「子どもたちの生活と家庭や地域社会の現状」「これからの社会の展望」が背景にある。それには、いじめ、不登校、凶悪化する青少年非行などの憂慮すべき状況や倫理感の不足、社会全体のモラルの低下、及び変化の激しい先行き不透明な厳しい時代などが挙げられる。

「心の教育」において重要な役割を果たす道徳教育では、そのかなめとなる「道徳の時間」で道徳的価値の自覚を深め、よりよく生きようとする児童の育成を目指すことが必要である。児童を取巻く環境の変化の中、社会体験の不足、自然体験の不足が指摘され、児童の人間としての調和のとれた育成を目指すために、また、主体的に生きていく上で必要な資質や能力を培うためにも、体験活動の充実が求められている。児童の道徳的価値を深めるために、体験活動における「さまざまな気づき」と「道徳の時間」にねらいとする「価値」の関連を考えた。体験活動の中で気づいた価値をもとに、道徳の時間に個々の感じたことや考えことをつなぎ、そこで生まれた感動を互いに共有したり、他者の考えを感じながら、道徳的価値の自覚を図り、人間としての在り方

や、生き方を自覚し、よりよく生きようとする力が育つものと考え。

本校は、周りを緑に囲まれ、広い校内では季節の草花や小動物、虫たちに触れる機会が多い。また、教材園には、野菜やサトウキビ畑、水田などが整備され、年間を通して直接関わることのできる環境にある。しかし、子どもたち自身には、自然の偉大さや自然の美しさに積極的に関わる様子がみられない。4月に行われた道徳性検査においても「自然や崇高なものとの関わり」の視点で道徳性が十分に発達していないという結果がみられた。そこで、本研究では、自然体験活動を取り入れた、学習を展開する。ゲストティーチャーを招き、校内散策やネイチャーゲームを楽しみながら、身の回りの自然に触れたり、パネルディスカッションの講師として、学習を進めたり、ゲストティーチャーを授業の中で活用する。ゲストティーチャーの人生観や生き方、考え方に直接ふれることで、子どもたちは、視点を変えた発想ができ、様々なものの見方ができるようになり、それが自分自身の生き方にもつながるであろうと考える。以上の観点から、道徳の時間と体験活動を関連付けた授業の工夫を行うことによって、道徳的価値の自覚が深まり、確かな道徳的实践力が身に付き、実践化への意欲が高められるのではないかと考え本テーマを設定した。

II 目指す児童像

自然の偉大さ、崇高さに気づき、自己の生き方について考える子

III 研究の目標

道徳的価値の自覚を図るために、体験活動と道徳の時間の関連と、ゲストティーチャーを活用した授業の工夫について実践的に研究する。

IV 研究仮説

1 基本仮説

身近な自然環境を利用した、体験活動と道徳の時間を関連を図り、ゲストティーチャーを活用した授業を工夫すれば、道徳的価値の内面化が図られ、自然の偉大さを感じ、自己の生き方について考えるであろう。

2 作業仮説

(1) 地域や校内の自然に触れ、親しむ活動を工夫することによって、美しいものや自然に対する興味・関心を高めるであろう。

(2) 地域や校内の自然に触れ、体験したことから、自分の思いや考えを表す相互交流の場を工夫することにより、他者との理解を深め、価値を認め合い、自己の見方や考え方を広げられるであろう。

(3) ゲストティーチャーを活用し、専門的な視点から、生活をふり返らせる活動を構成することで、継続・発展的に課題へ取り組むだろう。

V 研究構想図

(3P)

VI 研究内容

1 体験活動と道徳の学習

知識だけの概念的理解のみにもとづいた学習では、切実感を伴わない学習展開になり、「生きる力」としての道徳的実践力まで高めることは、難しいと

考える。道徳だから、きまりだからといった態度で行動することは、外的な制約に縛られた行動にとどまり、生きて働く力としての実践力には結び付かない。しかし、子どもが体験活動などを通して感じたことをもとに、道徳の時間に心情的に受け止め、さらに自分の思いや考えを深め、自分自身の内面的な自覚をともなった内からの変容として出てきた行為は、主体的な実践となり、実生活のなかで形をかえてさらに生きて働く力となっていくものと考ええる。

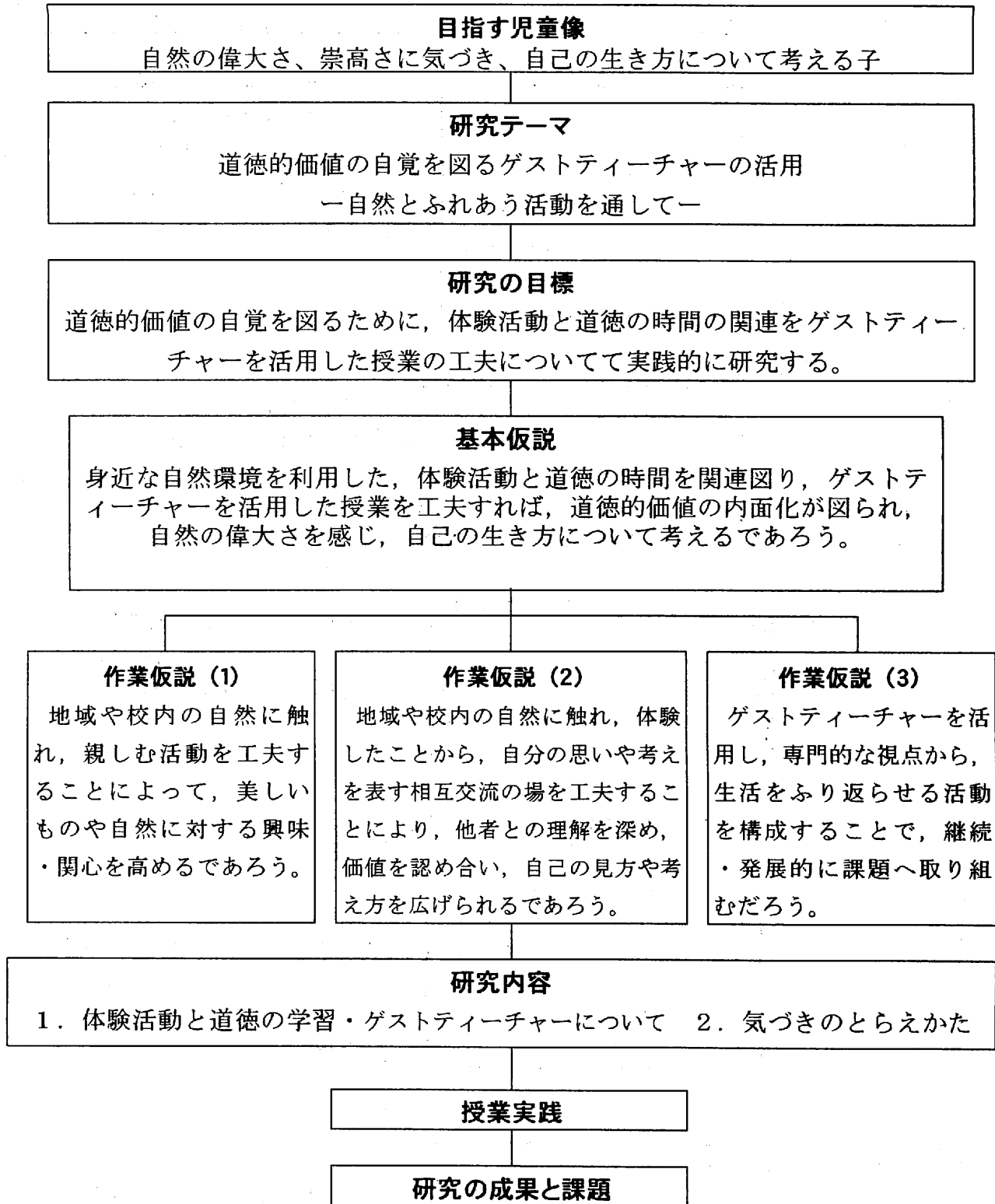
本研究では、「道徳の時間」「総合的な学習」の関連から、総合単元的な道徳学習を行う。総合的な学習において、ゲストティーチャーを招き、実際に体験活動を行うことによって、より切実感をもってあたり、主体的意欲的な学習展開につなげる。道徳の時間において、体験活動で得たことを意味付けし、整理する。さらによりよい行動をとるための場としてゲストティーチャーを招き、学習課題について、より深く考え、整理する。

このように、体験活動と道徳の時間を単元化し、総合的に機能すれば、それぞれが、補充・深化・統合されバランスのとれた教育活動を展開できると考える。

2 「道徳的価値」と「気づき」について

児童が道徳的価値の自覚を図るために、体験活動における「気づき」と「道徳的価値」の関連を図った。体験活動では、それぞれの児童が発見、疑問、驚き、反省、喜び、感動などを感じる。それらを「気づき」ととらえる。「道徳の時間」には、体験活動での「気づき」をもとに考えることで、自分へのふり返り、他者の考えへの「気づき」を認め、個々に様々な思考をしながら、価値の内面化が図られると考える。さらに、実践したいという道徳的実践力が高まる。このような、「道徳の時間」と「体験活動」を関連させた授業の工夫を行うことによって、児童の道徳的価値の自覚が深まり、よりよく生きようとする児童を育成することができると考える。

(V 研究構想図)




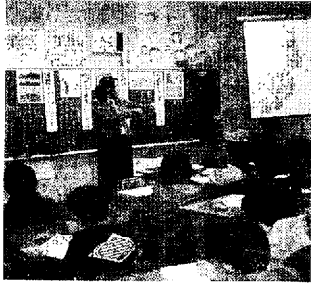
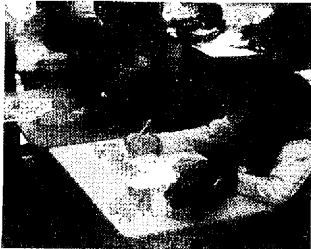

VII 授業実践

- 1 総合主題 自然がおしえてくれるもの
- 2 ねらい 自然に触れ、体験したことからその偉大さや不思議さを知り、自然や動植物を愛する態度を養う。

3 総合単元的な道徳学習の全体構想図

児童の意識	学習の構成	指導上の留意点
<p>○自然ってすごいな、不思議だな。</p> <p>○生きるってことはすごいなあ。</p> <p>○自然はいいなあ。</p> <p>○自然は友だちなんだな。</p> <p>○大事にしなければいけないんだなあ。</p> <p>○自分たちのまちは自分たちで守っていかねばいけないんだなあ。</p> <p>○身の回りにも気をつけないといけないことがたくさんあるね</p> <p>○僕たちにできることを考えよう。</p>	<div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: center;"> <div style="display: flex; align-items: center; margin-bottom: 10px;"> <div style="writing-mode: vertical-rl; border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px;">堆肥を作ろう</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: 250px;"> <p>主題 感動と畏敬 (1時間)</p> <p>資料名 生きる</p> <p>目標 自然や生命のたくましさや不思議さに感動し、それらを尊敬する心情を育てる。</p> </div> </div> <div style="margin-bottom: 10px;">↓</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: 250px; text-align: center;"> <p><総合的な学習> (2時間)</p> <p>自然から学ぼう</p> <p>・ゲストティーチャーと一緒に自然から学ぼう。</p> </div> <div style="margin-bottom: 10px;">↓</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: 250px;"> <p>主題名 自然愛 (1時間)</p> <p>資料名 戦場ヶ原ハイキング</p> <p>目標 自然のすばらしさや不思議をしり、自然を大切にすることを育てる。</p> </div> <div style="margin-bottom: 10px;">↓</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: 250px;"> <p>主題名 郷土愛 (1時間)</p> <p>資料名 僕たちの環境を守ろう</p> <p>目標 環境の守り手は自分たちであることに気づく。</p> </div> <div style="margin-bottom: 10px;">↓</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: 250px; text-align: center;"> <p><総合的な学習> (2時間)</p> <p>「自然を守るために」というテーマで、ゲストティーチャーを招き、パネルディスカッションを行う。</p> </div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・単元化した道徳学習の第1時。河原でたくましく生きる木と、数ミリの小さな花の花粉をまき散らすカテンソウの写真を提示して、生命の不思議さやたくましさについて考えさせる。 ・自然に触れ、ゲストティーチャーと共に校内散策やネイチャーゲームを楽しむことによって、自然の美しさ、不思議さについて気づかせたい。 ・前時での自然体験活動で得たことを、道徳学習の時間に生かし、ねらいとする価値、「自然を愛する心」を育てたい。 ・住みよい地域社会をつくるには、住民一人ひとりが何をしたらよいのか考え自分たちにできることは何かということを考えさせたい。 ・市の環境保全の方をゲストティーチャーに招いて、パネルディスカッションをすることによって、自分の考えをまとめ、他者の考えを聞きながら自然をまもるために大切なことは何かということを考えさせたい。

4 指導計画（7時間）

時間	教科・領域	時数	ねらい	学習内容
1	道徳 	1	・自然や生命のたくましさや不思議さに感動し、それらを尊敬する心情を育てる。	1. 自然を見て不思議だと感じたことがあるか考える。 2. 写真「たくましく生きる木」を見て考えたことを発表する。 3. なぜ、「生きる」という題がつけられたか考えながら感想文を書く。
2 ・ 3	総合的な学習 	2	・校内にある自然に触れ、草木の性質などを知りながら、刈り取った野草を使って、縄つくりをする。 ・グループで協力して活動をする。	1. ゲストティーチャーの神山夢時さんを紹介する。 2. 神山さんの話を聞き校内を散策する。 ・草木の種類や性質を知る。 ・堆肥の作り方 3. 刈り取った草を使って縄を作る。 4. 出来上がった縄で綱引きをしよう。
4	道徳 	1 検 証 授 業	・自然のすばらしさや不思議さを知り、自然を大切にすることを育てる。	1. 戦場ヶ原の写真をみて、感じたことを話し合う。 2. 「戦場ヶ原ハイキング」を読んで話し合う。 3. 自然の力はどんなところがすごいと思うか考える。 4. ゲストティーチャーの神山さんの話を聞く。
5	道徳 	1	・環境の守り手は自分であることに気づき、地域社会の環境の保全に積極的に関わろうとする態度を育てる。	1. 自分の住んでいる町の良いところを発表する。 2. 資料を読んで話し合う。 3. 住みよい町をつくるために何ができるか考える。
6 ・ 7	総合的な学習 	2	・ゲストティーチャーの話を聞き、自然環境を大切にしようとする態度を育てる。	1. グループの発表をもとに意見交換をする。 2. 自然を守るためにできることを身の回りの事から考え話し合う。 3. ゲストティーチャー、兼次さんの話を聞く。

5 検証授業

前時の自然体験活動において、児童は今まで気づかなかった自然の美しさ、厳しさ、不思議さを身をもって実感できた。そこで得た体験が本時のねらいとする「自然を愛する心」につなげ、価値の内面化を図る。

平成14年12月12日（木）3校時
 浦添市立前田小学校 4年3組
 男子24名女子16人 計40人
 授業者 飛田 昌恵

1. 主題名 自然を大事にする（自然愛3-①）

2. ねらい 自然のすばらしさや不思議さを知り、
 自然を大切にすることを育てる。

3. 資料名 戦場ヶ原ハイキング

4. 主題設定の理由

(1) 価値観

人間は何万年という長い時間の中で自然と共に生き、生まれた存在である。自然は命に満ちており、その雄大さははかりしれない。人間はこの自然に生かされる存在であるが、そのことを忘れ、愛するどころか、自然を人間の都合のよいものに作りかえ、それが当然のように思いがちである。それでも。思いがけず、自然の美しさ、偉大さに触れたり、動植物がひたむきに生きようとする光景に出会うと、そのすばらしさを実感し、その偉大さに驚き感動する。人が自然に対してこのように心を動かされるのは自然の持っている生命力や、人工的でない自然そのものの中に調和性を見たり、感じたりするからであろう。人間が関与できない大きな力の前に立ったとき、その不思議さと偉大さを感じずにいられないだろう。この実感が命あるものをいとおしむ気持ちを育て、広く自然や命を大切にしようとする心情へ結びつく。

(2) 児童観

この時期、児童の発達段階として、「すばらしい。美しい。やさしい」という感情は教えなくても、

すんなり出てくるといわれている。しかし、その「すばらしい、美しい、やさしい」という感情は普段身近にある自然にどれだけ向けられているであろうか。抽象的に、「すばらしいと感じたこと」「美しいと感じたこと」などを設問し、その集計を行ったところ、次のような結果がでた。

（自然、生物、物の区分は実施後行った）

実態アンケート（40名）

< 1. これまでにすばらしいと感じたこと >

自然に対して	海	6人	
生物に対して	人の心	8人	友だち4人
	動物	3人	植物 3人
	家族	3人	働く人 1人
物に対して	音楽	1人	家 2人
なし			5人

< 2. これまでに美しいと感じたこと >

自然に対して	海	14人	夕日	3人
	空	1人	雪	1人
生物に対して	花	6人		
物に対して	写真	1人	車	1人
	きれいな家	1人		
	食器	1人		
なし				6人

< 3. これまでにやさしいと感じたこと >

生物に対して	友だち 26人 家族 6
なし	8人

< 4. 動物や植物をかわいいと思ったこと >

ある	犬 17人	うさぎ 4人
	ハムスター 3人	猫 5人
	りす 2人	
	猿 2人	鳥 1人
	植物 6人	
なし	0人	

< 5. これまで生き物をいじめたり、おもしろ半分に花びらをむしりとったこと >

ある	花 15人	ねこ 3人
	アリ 2人	はち 1人
ない	17人	

以上のようなアンケートから、様々な価値観を持つ、40人がいっしょに生活していることがわかる。2の項目では、地域柄、「海」と回答した児童が多数いた。海や夕日を美しいと思う児童は多くても、「すばらしい」「やさしい」と結びつけて考えることは少ない。これは、子どもたちが自然のもつ偉大さや、雄大さに心から気づいていないのではないか。道端や庭の片隅に咲いている一輪の草花、踏まれても育つたくましさ、一粒の種子が発芽して日に日に成長をしていく不思議さ、一匹の小動物や昆虫がヒナや幼虫から成長していく姿。自然や動植物のもつ不思議な力や働きのすばらしさ、このような自然のもつ偉大さを、児童にいろいろな経験の場をもたせながら、知識として自然をとらえさせるだけでなく、具体的経験に照らしながら、より深く自然の大切さに気づかせたい。

(3) 資料観

この資料は、児童が遠足や家族旅行等で経験するハイキングが素材になっており、自らの体験と重ねて考えると容易であることから、親しみをもって学習に取り組むことができると思われる。構成は戦

場ヶ原に美しさに心を打たれ、弟がアゲハチョウを追いかけて湿原に入ったのを注意し、雷にあって自然の不思議さや、こわさを体験する、というようになっている。話の筋も明快であり、起伏にも富んでいるので、興味をもって読み、話し合うことができると思われる。読みとりにあたっては、高原や山の天候が急変すること、雷が多く危険なことについてつかませる。さらに、そうした土地の草木、コケなどは「ひと踏み10年」というほどデリケートであり、大切にしないと容易にもどらないことも付け加えたい。子ども達が、体験した自然のふれあいの中から、体験に裏打ちされた子ども達の発言を引き出し、自然について考えさせねらいに迫りたい。

(4) 指導観

総合主題名は「自然がおしえてくれるもの」である。「体験活動」「ゲストティーチャーの活用」「実践的な活動への取り組み」等を取り入れ、主題に迫る。

本授業においては、導入段階で、戦場ヶ原の美しい風景をスライドで提示し、子どもたちの話し合おうとする問題に気持ちを焦点化させ、問題意識を掘り起こさせる。展開段階では、資料をもとに、主人公に自分の考えを投影させながら、問題の追求を行う。中心発問では、自然の美しさとともに、人間の都合で左右することのできない不思議や、体験活動で学んだことを想起させながら、実感として捉えさせたい。後段では、絵手紙をつかって、ねらいとする道徳的価値を考えさせ、今後の自分のことについて見通しや意欲をもたせるようにしたい。

5. 授業仮説

①映像を活用し、自分自身が体験活動で得たことをふり返らせることで、価値に対する共感が高まるであろう。

②自分の思いや考えを絵手紙にかかせ発表させることで、他者の自然に対する思いへの理解を深め、自己の見方や考え方を広げられるであろう。

6. 展開


	発問・学習活動の流れ	指導上の留意点○ 評価●
導入	<p>1. 戦場ヶ原の写真を見て、感じたことを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・とても美しく、そのままとっておきたい。 ・気持ちがよさそう。 ・どこまでも自然が広がっている感じ。 	<p>○写真を用いて、児童の道徳的価値の把握ができるようにする。</p> <p>○戦場ヶ原の地図を示し、中心資料への関心を高めさせる。</p>
展開 ・ 前段	<p>2. 「戦場ヶ原ハイキング」を読んで話し合う。</p> <p>①私はどうして「だめよ、もどきなさい」と言ったのでしょうか。(基本発問①)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スギゴケや草花が踏みつけられるから。 <p>②かみなりの音を聞きながら、両親にだかれるわたしは、どんな気持ちだったのでしょうか。(基本発問②)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こわい雷が早く通り過ぎてほしい。 ・自然の変化ははげしい <p>③雨がやんだあと、草花や虹を見た私たちはどんな気持ちだったのでしょうか。(基本発問③)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然って不思議だな。 ・自然ってうっとりするほどきれいだな。 	<p>○主人公「わたし」に共感させるために、資料の条件・状況をしっかり説明する。</p> <p>○自然について深く考えない弟の行動をみることにより、戦場ヶ原全体の自然に目を向けさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・挿絵や高山植物の写真を提示する。 <p>○急に変わった天候も大きな自然の中の一つの現象であり、不思議さでもあることを感じとらせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・挿絵を提示する。
後段	<p>3. 自然の力はどんなところがすごいと思うか考える。</p> <p>④自然ってどんなものですか。(中心発問)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然は長い時間をかけてつくり上げる。 ・はげしい気候の変化にたえる。 ・大きな自然が小さな自然を守る。 ・自然は大切なもの。 ・なぜ大切なのかな。 	<p>●自分の考えをもち、進んで表すなど、意欲的に話し合っていたか。</p> <p>○映像で表示し、価値への自覚をはかる。(体験活動の映像)</p> <p>検証①自然の持つ価値を共感することができたか</p> <p>戦場ヶ原や自然体験活動のスライドショーを見て、自然の持つ価値にせまる。</p>
	<p>4. 自然の中で見たことを絵手紙にかいて十年後の自分にだす。</p> <p>⑤みなさんが、自然に教えてもらったことを葉書に書いてみましょう。</p>	<p>○各自の体験などを交流し、各々が今までや現在の姿を深く見つめられるようにする。</p> <p>●友だちの考えに学び、違いを見つけて自分の考えを深めていたか。</p> <p>○神山さんとの自然の中で体験したことなどを思いだし、絵はがきに書かせる。</p> <p>検証②道徳的価値の自覚ができたか</p> <p>自然のすばらしさや不思議さについて自分なりの思いや考えを絵手紙に表し、自然を大切にしようとする気持ちを持たせる。</p>
終末	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲストティーチャー（神山さん）の話を聞く 	<p>G Tの話しを聞いて、自分の気持ちをまとめさせる。</p>

7. 評価

自然のすばらしさや不思議さを知り、自然を大切にしようとする
自分の考えを深めようとしていたか。

8. 板書計画

写真②



写真①

⑤ 自然の中で見たことを絵手紙に書いて十年後の自分に出しましょう。

④ 自然ってどんなものでしょうか

- ・ 時間をかけてつくりあげる
- ・ 激しい気候の変化がある。
- ・ 自然は大切なもの

③ 雨がやんだ時

- ・ 自然って不思議だなあ
- ・ うっとりするなあ

② 早く通り過ぎて欲しい

雷の音を聞いている時

- ・ 今まで晴れていたのに不思議だ
- ・ こわい

① 昆虫をとつちやいけない

「だめよもどきなさい」と言った時

- ・ コケが踏みつけられていたむ
- ・ 美しい花が咲いている

戦場ヶ原ハイキング

<資料>

戦場ヶ原ハイキング

戦場ヶ原は、アシやカラマツなどでおおわれ、はるかむこうまで広がっていました。いたるところに、ニッコウアザミやニッコウキスゲさき、あざやかな色をしていました。わたしは、思わず、美しいニッコウキスゲを取りたくなりましたが、がまんしました。「あつ、アゲハチョウだ。」弟が、アシの中をおいかけて行きました。「だめよ。もどきなさい。」

わたしは、大きい声で言いました。弟は、どうして、と、というような顔をして立ち止まりました。

「このミズゴケや草は、一度ふみつけられると、なかなかもとへもどらないのよ。」と、お母さんがいいました。弟は、うなずいて、引き返してきました。しばらくすると、晴れていた空が急にくもり、遠くで雷が鳴りだしました。お父さんが、「こちらにきそうだ。レインコートとかさの用意だ。」と、言いました。わたしたちは、したくをして、森のほうへ急ぎました。

ぼつぼつと、おおつぶの雨が落ちてきたとたん、ピカッ、ガラガラガラッ!

雨ははげしくなりました。わたしたちは、森の中で両親にだかれるようにして、かみなりが通りすぎるのを待ちました。しばらく待っていると、ふり始めたときと同じように、とつぜん雨がやみ、またたくまに青空があらわれました。木々の葉には、しずくが光、かがやいていました。草花も、シャワーをあびたように、生き生きとしています。東のほうには、虹がかかっています。わたしたちは、うっとりとして、しばらくながめています。そして、ゆつくり歩き始めました。

9. 検証授業の考察

(1) 授業仮説の検証

(仮説1) 映像を活用することと、自分自身が体験活動で得たことをふり返らせることで、価値に対しての共感が高まるであろう。

<事例1>

子どもたちから、戦場ヶ原のスライドショーを見て、「きれい」「すごい」などの声があがった。

このことから、スライドショーを使って視覚に訴える事によって、戦場ヶ原の美しい自然のイメージが湧き、これから学習する道徳的価値への方向づけができたのではないか。子どもの感想にも戦場ヶ原の美しい風景のことが書き表されていることから、それが伺える。



写真1：戦場ヶ原のスライドショーの様子

<事例2>

「そうそう」「あんなことがあったな」などつぶやいている。

このことから、自然体験活動で得たことを思い出し、道徳の授業に関連させて考えようとしている様子がとらえられた。このことから、ねらいとする道徳的価値せまれたのではないかと考える。

(仮説2) 自分の思いや考えを絵手紙に書かせ発表することで、他者の理解を深め、自己の見方や考え方を広げられるであろう。

自分の「気づき」について、また他の児童の意見を聞き合うことで、さらに実感、納得し、考えを高められたことが評価カードからも伺える。

～児童の評価ノートより～

・私は、自然のことなんてあまり考えなかったけれど、あらためて大事にしないといけないのだと思った。みんな自然を大切にしたいという気持ちは同じだからみんなで守っていくといい。(S君)

これは、自分の考えを反省し、他者の考えを認めさらに、高めていこうとしている。(ここでの「気づき」は発見、反省等)

自然は、人間や生き物が一緒につかうのだから、大切につかうのがふつうだとます。大人になっても、自然を大切にしたい。今の自然を変えないまま、今の自然を大人になってもみたい。(K君)

K君は、10年後の自分に絵手紙を書く段で、将来に対しての希望をこめて書き記していた。このことは、目先で物事を考えるのではなく、未来を見通して物事を考えることができるようになった表われではないか。



写真2：自然体験活動のスライドを見ている様子

VIII 研究の考察

1. 作業仮説(1)の検証

(仮説1) 地域や校内の自然に触れ、親しむ活動を工夫することによって、美しいものや自然に対する興味関心を高めるだろう。

<指導の工夫>

自然体験活動の講師として、地域の方をゲストティーチャーとして招く。ゲストティーチャーの生の声は、子どもたちの心に直接響き、心に残る授業を展開することができる。留意した点は、ねらいとする価値からずれないように、打ち合わせに時間をかけた。

<結果と考察>

校内をゲストティーチャーと散策することによって、今まで気づかなかった自然の大きさに触れ、興味・関心が高まったようである。それは、体験活動の記録からも

自然には、いろいろなふしぎなことがありました。ふつうに歩いていくマラソンコースには食べられる草とかがありました。一本の草から、あんなロープができるなんて、とてもすごいと思いました。自然があるから、ぼくたちも生きている。そういうことが、今日の授業でわかりました。僕は、今日の授業で、自然の大切さがわかりました。H君

伺える。

H君は、体験活動で今まで何気なく過ごしていた身近な自然について関心をよせるようになってきている。また、「自然があるから、ぼくたちも生きている」という文面から自分に関連させて考えられるようになってきている。H君のここでの「気づき」は、発

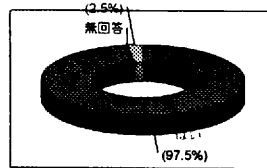
生きている虫、草がありました。そして、一番かわいそうだったことは、ミカンの木です。なぜかと言うとカミキリ虫の巣があったからです。自然を食べるな、と思いました。でも、カミキリ虫もミカンの木を食べないと死んじゃうから、私は、虫も自然の生き物だな、と思いました。Aさん

見、驚き、喜び、感動等であると考える。

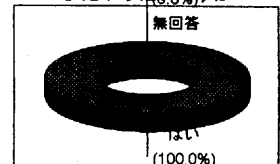
Aさんは、自然界の生き物は自然の厳しさに囲まれて生きているのを感じ始めている。ミカンの木はカミキリ虫に食べられて死んでしまう。でも、カミキリ虫も生きるためには、そうしなければいけない。Aさんの中での葛藤が感想カードから伺える。Aさんの体験活動における「気づき」は、発見、疑問、驚き等である。

授業後に体験活動についてのアンケートを行った。その結果以下ようになった。自然体験活動を「またやりたいか」という問いかけには、100%の児童が「はい」と答え、楽しかったという児童も100%近くいた。また、「自然についてどう思うか」という問いかけには、児童によって、体験活動で生まれる「気づき」はさまざまであるが、これまでに向けられなかった自然に対する何らかの興味・関心が高まったのではないかとと思われる。

自然体験活動は楽しかったですか

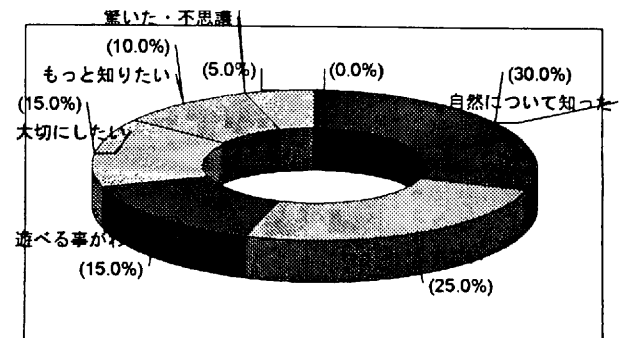
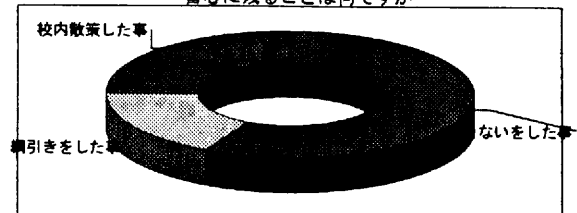


またやりたいですか



表示文字列

一番心に残ることは何ですか



自然についてどう思うか

2. 作業仮説(2)の検証

仮説(2)地域や校内の自然に触れ、体験したことから、自分の思いや考えを表す相互交流の場を工夫することにより、他者との理解を深め、価値を認め合い、自己の見方や考え方を広げられるであろう。

<指導の工夫>

(1) 資料選択の視点

自然体験活動における心の体験を道徳に時間に生かしていく場合、その時に感じた驚きや当惑、感動や共感を思い出させるような資料の選択を行った。

- ・多くの児童が体験したことがあろうハイキングを素材にした資料。
- ・内容はわかりやすく、単に美しさ、すばらしさだけではなく、自然の持っている厳しさや、深さなどを考えられる資料。

(2) 発問の工夫の視点

- ・体験活動で認識したことと、道徳的価値との関連を図る発問を行う。
- ・体験活動で学んだことを関連して、自分自身の問題として考えられるようにする発問や道徳的価値の大切さに気づかせる発問を行う。
- ・道徳的な価値の大切さに気づかせる発問を行う。

<結果と考察>

(1) 資料選択の視点について

前時に体験活動で学んだことと道徳的価値との関連を図れる資料の選択を行った。児童が生活の中で体験している「ハイキング」の資料を取り上げることによって、より身近なものとして考えることができ、体験活動で児童が感じたことを無理なく想起させることができた。

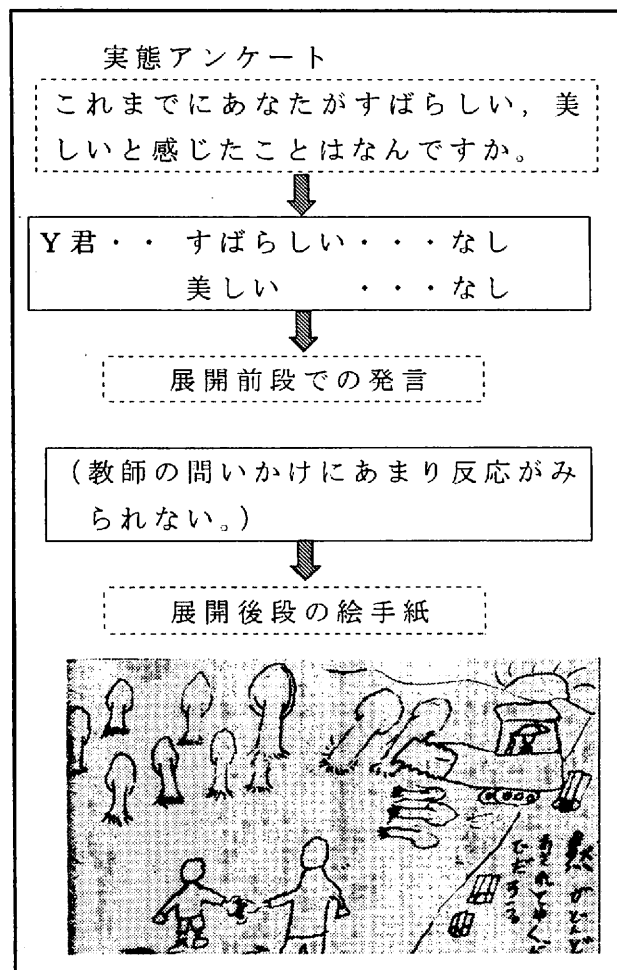
(2) 発問の工夫について

展開後段で、体験活動と関連した自然の大切さに気づかせる発問を仕組んだ。「自然ってどんなものですか」と発問することで展開前段でつかんだ道徳的価値をふり返らせ、その後に「みなさんが自然におしえてもらったことを葉書に書いてみましょう」と問うことで、体験的な学習で感じたことと道徳的価値が児童の意識の中でスムーズにつながり合うようにした。

その結果、体験活動と道徳の時間の学習の児童の意識に次のような変容がみられた。

(ア) 自然を大切にすること意識

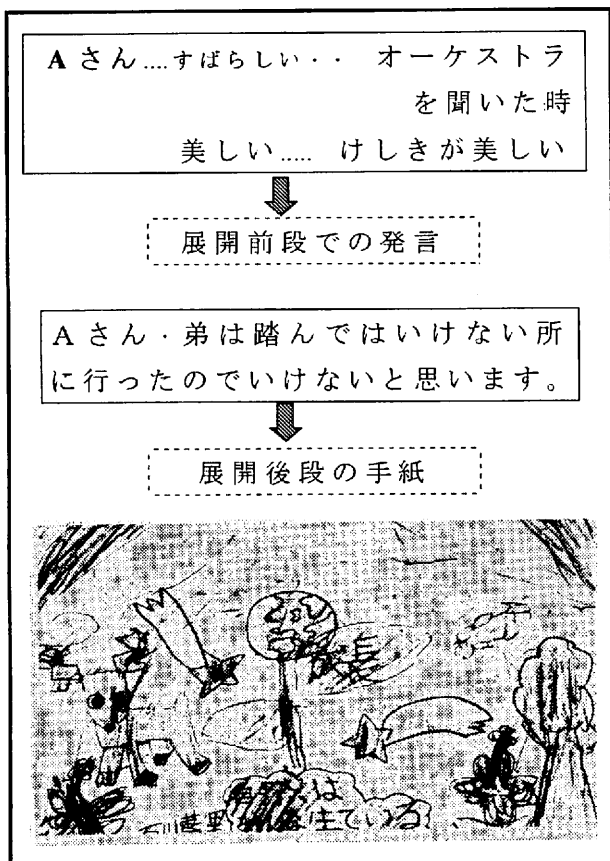
事例1



Y君においては、授業の展開前段におい

ても、教師の問いかけにあまり反応をしめさなかった。しかし、絵手紙を見ると、「自然がこわされていくのはなんでだろう」と疑問を抱き始めた。これは、今まで無関心であった自然への関心が授業の流れの中で少しずつ変わってきた表れではないか。これが、Y君における本授業の中での「気づき」（疑問）の部分と考える。さらに、次時の授業の中での変容をみたい。

事例 2



Aさんにおいては、アンケートの段階も、自然に向ける興味はいくらかあったようである。本時の授業が進む中、ねらいとする価値に対して、思いを深め「自然は生きている」「成長する」と自然の持つ偉大さをさらに深く考えるようになっている。

(イ) 自然から学んだものは何か

事例 1

体験的な学習からの感想

K君

モモタマナのみが、たべられることをはじめてしりました。おかあさんおとうさんにもおしえてあげようかなとおもいました。

ゆめじさんは、いろいろ、しつてていいなとおもいました。

↓

展開後段の絵手紙

K君は、体験学習から得られた「気づき」（発見、喜び、感動など）を実感し、「自然におしえてもらったことは」の問いかけには、絵手紙に、自分が知る限りの自然を素直に書き表している。このことから、自然体験活動からつなげた道徳学習を展開することによって、自然から学んだものの大きさを感じ取ったのではないかと考える。



写真：自然体験活動（縄あみ）

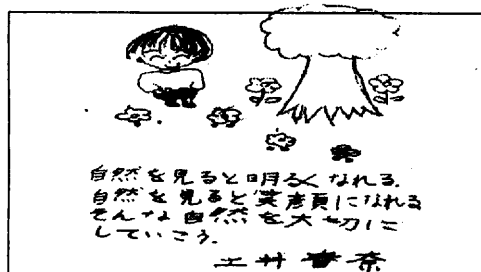
事例 2

体験的な学習からの感想

Hさん

私は、二つの自然を実感しました。一つは、草でつなひきやかんむりなどができる、いろいろなものがつくれる自然です。もう一つは、カミキリ虫も自分のしそんをのこすために、一生けんめいミカンの木にあなをあけたこと。何かのために、何かをぎせいなる自然はとてもきびしいと思いました。

展開後段の絵手紙



Hさんは、体験活動で自然の楽しさ、厳さ、無情さを学び、数多くの「気づき」体得している。ねらいとする価値について実感して学ぶことができたようである。

以上のような記録からも伺えるように本単元の道徳的価値、「自然の偉大さや不思議さを知り、自然や動植物を愛する」といねらいに迫れたのではないか。子どもたに芽生えた、それぞれの「気づき」をさに広い視野で考え、道徳的実践へと結びけられるような指導が必要である。

3. 作業仮説(3)の検証

仮説(3)ゲストティーチャーを活用し、専門的な視点から、生活をふり返らせる活動を構成することで、継続・発展的に課題へ取り組むだろう。

<指導の工夫>

子どもたちが、それぞれの持つ課題について、自分なりに考えを持ち、意欲的に話し合あえる場を設定する。そこで、他者の考えに学び、違いを見つけて、自分の考えを深めさせる。方法として市の環境保全課の方をゲストティーチャーとして招き、パネルディスカッションを行う。意見交流の時は、考えの根拠をはっきりもたせておくよう指導を行った。

<結果と考察>

～授業記録～

<事例1>

- C 1 ぼくたちのグループは「海の汚れ」について考えました。前の道徳の時間で赤土で汚れている海を見たり、ゴミが海岸にあるのを見たりして、話し合いをしました。
- C 2 それで、考えたことは、月に一回にゴミ拾いをしたりしたらどうかということです。また、市のボランティアなどの活動もなどの活動もできたらいいと思います。
- C 4 清掃のボランティア活動のなどに協力したらいいと考えました。

児童の発言から

・学校におちているゴミや地域のゴミひろいをする。

(自然体験で得た、「自然を守ろう」からの気づき)

<事例2>

C16 ぼくたちのグループは「草花をむやみにむしらない」ということを課題にして話し合いました。そのわけは、草花を平気でむしって遊ぶ人がいて、花がかわいそうだと思ったからです。

C17 でも、前に神山さんと自然体験活動をした時、実や花を食べたりしました。でも、道徳の時間に「戦場ヶ原」のお話を聞いたときは、草花をふむことさえゆるされませんでした。このちがいが、ぼくたちには不思議に思いました。みなさんはどう思いますか。ぼくたちはよくわからないので、みなさんも一緒に考えて下さい。

C 司会 みなさん、意見はありますか。

C20 やっぱり、草花を食べるのはかわいそうだと思う。この間（体験活動の時間に同行した）おかあさんもかわいそうだと言っていた。

C 6 それとはちがうんじゃないのかな。

C14 雑草はいいと思う。

C21 でも、戦場ヶ原の草は特別だから。「ふと踏み10年」っていったから。（ざわつく）

T とてもいい呼びかけでしたね。悩みますね。いろいろ意見もわかれていますね。次のグループの発表が終わったら兼次さんのお話も伺いながらもう一度考えましょうか。

・草花をむやみにむしらない

（道徳の時間の「戦場ヶ原」で学んだ

「ひとふみ10年」という気づき）

ここでは、体験活動で得た、「気づき」から生まれた課題を話し合いを通して深めている。体験活動を想起しながら話し合い、他の児童の意見を聞き合うことで、「自分の「気づき」について実感、葛藤しながら考えを確かにしたり、気持ちを高めようと

しているのがわかる。

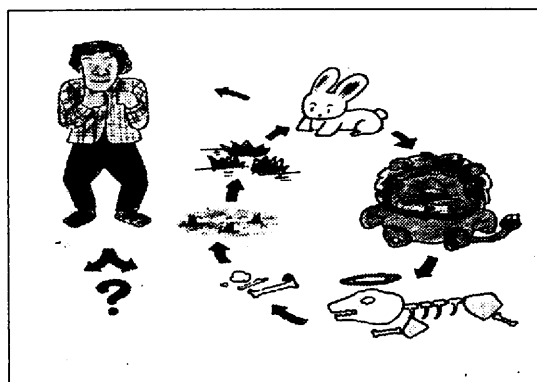
<GTの話>

司会 最後にかねしさんのお話をお願いします。

GT みなさん、とてもいい考えを発表してくれました。感心しました。今度は、おじさんが少しお話ししましょうね。

地上の生き物はね、植物がいて、それが動物に食べられる、そして、動物が死んで骨になり、それがバクテリア分解されて土にかえる。それが、植物の栄養になり育っていく。そしてまた動物に食べられ・・・そのくり返しなんです。海でも同じ、植物プランクトンが動物プランクトンに食べられ、そのプランクトンが小魚に食べられ、それが大きな魚に食べられ、それが死んで骨になり、バクテリアに・・・

そういう、命のバトンタッチがあるんですよ。少し難しいかな。でも、人間もこの自然の中に生きているんだよ。



GT みんなは、自然は大切だから守っていくためにどうすればいいかを考えてくれたけれど、だれが自然を大切にしていないと思いますか。

C23 人間・・・

GT そう。たとえば、みんなは歯みがきをする時、水をだしっぱなしをして

いないかな。水は、かぎりなくあるものかな。

人間が住む住宅も木をたくさん切りたおして建てる。木は何を作り出すか知ってますか。

C さんそ

GT そう。酸素を作り出してくれる木なのに、木がなくなったら、空気もなくなっていくね。

クーラーや冷蔵庫のガスで地球が暖かくなってきているのも知ってますかそれも、人間のせいですね。

あと、みなさんがチョコしそうになって車でお母さんに送ってもらおうとするね。そうすると、排気ガスがでるねそうすると、空気はどうなりますか。

わたしたちにできることを考えてみんなが、少しずつでも気をつけていけばいいと思いませんか。

自然を育てて、大切に、守っていきたいですね。自然はみんなの宝物だよ。

感想カードから

< T君 >

かねしさんの話を聞いて、自然は人間がこわしていることがわかりましただから、水や電気のむだづかい、物のむだづかいはやめたいです。人間は自然があるから生きていけることがわかった。

< U君 >

ぼくたちは、どうしたらゴミが少なくなるかを考えましたが、「ゴミをひろい」だけではだめだということもわかりました。自然をこわしているのは、ぼくたちだとわかりました。

< H君 >

ほとんどがふだんやっていること

が、自然をはかいしているんだな。気をつけていきたい。

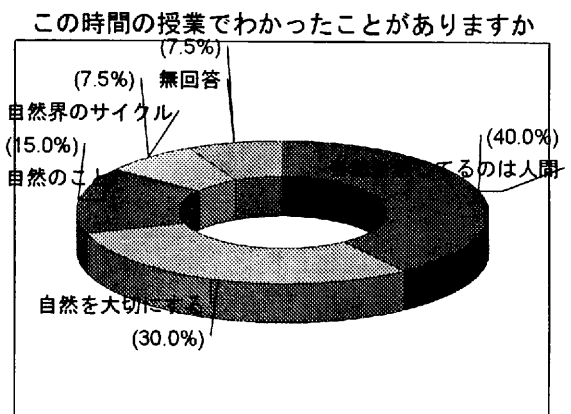
< Aさん >

わたしは、かねしさんが「自然はみんなの宝物」と言ってくれたことが感動しました。自然のことをよーくおしえて下さって、ありがとうございました。

以上のような授業記録からもわかるように、総合単元化された授業が進む中で、「自然の大切さについての思い」が深まっていることが、児童の発言や感想カードからよみとれる。

子どもたちは、自分たちの体験活動や追求活動の中で出会う地域の方や行政の方とのかかわりを通して、自然に対する思いや願いに触れ、自分の考えや意見をもつことができたのではないかと。また、ゲストティチャーの生の声は子どもたちの心に響き、活用することの効果があったのではないかと。

今回の授業後の感想をもとに本授業で学んだものを集計してみた。



児童の感想カードから、自然を壊しているのは、本当は、人間だということをよく考えられる授業内容であったと思う。ただ、自然は大切、よごさない。ということだけではなく、どうしたら守れるのかというこ

とを、GTの話から「自分たちにできること」を考えることができたのではないか。

資源のむだづかい、物のむだづかいなどは環境汚染につながり、一人一人が気をつけなくてはいけないこと。「小さなことから始める、大事なこと」がよく理解できたのではないかと考える。今後、自分たちがしたいこととして、道徳的実践での志向としてよみとることができた。

IX 研究の成果と課題

1. 研究の成果

- ・自然の中での校内散策や「縄ない遊び」などを行うことによって子どもたちは、遊びの中で、植物の持つ性質、自然の持つ不思議さ、偉大さに気づくことができた。
- ・子どもたちは、ゲストティーチャーへの共感の深まりから、興味深く学習に取り組む、価値にせまることができた。
- ・体験活動と道徳の時間の関連を図ることを通して、資料に含まれる道徳的な価値を自分とのかかわりにおいてとらえる事ができ、考えを広げることができた。
- ・話し合い活動を通して、道徳的価値について考えを深め、広げることができた。
- ・同じ道徳的価値という点で、道徳の時間と体験的な学習を組み合わせながら、単元として学習を展開していくため、児童の思考に連続性がみられた。

2. 今後の課題

- ・子ども自身が興味・関心を持って、じっくり活動に取り組み、試行錯誤できる体感活動を行う。
- ・体験的な学習を通して感じ得た疑問、驚き、当惑、感動、共感から児童の道徳的な価値に対する意識を的確に把握して

おくことが大切である。その上で、どのようなねらいで道徳の時間の学習を行うのか、どのような視点で体験的な学習を生かして行くかを考えていくことが大切だと考える。

おわりに

ゲストティーチャーと共に自然体験活動を行ったときの子ども達の顔を忘れる事ができません。喜びに満ち、不思議さに驚愕し、無情さに顔をゆがめる。新しい何かに直接触れるということは、子ども達にとって大切なものだ実感しました。教師自身も、今回の体験活動で知り得た事も多くありました。自然の持つ厳しさ、その中で生きていくための知恵、学ぶことは多くありました。

今回、自然体験活動と道徳学習を関連させて行うということに、どれだけの効果があるのかは未知数であり、事前の準備も大変ではありましたが、子どもたちの満足した顔をみると、しっかりと子ども達自身が「思いや考え」が深まったという確信さえ感じます。この体験活動の中で気づいた価値を、さらに深め、それが確かな実践力として高めていけるような指導をこれからも行いたいと思います。

最後になりましたが、研究期間中、親身になってご指導して下さいました研究所の大城所長、當間係長、山里主事、職員の皆様、教科指導員としてご助言下さいました神森小学校の狩俣直美先生に深く感謝申し上げます。そして、六ヶ月という長期にわたる研修の機会を与え支援して下さいました浦添市教育委員会、前田小学校の玉村校長先生をはじめとする諸先生方に心より感謝申し上げます。

<主な引用・参考文献>

文部省	学習指導要領（道徳編）		1999
伊藤敬一	「生きる力」をつける道徳授業	明治図書	1996
村上敏治他	4年生の道徳「教師用手引き」	ぶんけい	1996
小学校道徳編集委員会	のびゆくこころ4年教師用指導書	日本書籍	2002
授業のネタ研究会	21授業のネタ道徳2	日本書籍	2002
押谷由夫	子どもとつくる総合単元的な学習	東洋館出版	1997
押谷由夫	総合単元的道徳学習論の提唱		
押谷由夫	総合ユニット方式による道徳学習	押谷由夫	2000
永田繁雄	道徳における学習指導と評価の充実		
香川県小学校 道徳研究会	総合的学習と連携を図る道徳学習	明治図書	1999